

久米加寿徳, 2014. 屋島のゾウムシ相. へりぐる, 35:25-30.

丸山宗利, 2002. 北海道の海岸性ハネカクシ. 昆虫と自然, 37(12):17-21.

森本桂, 1993. 海辺の甲虫類概説. 昆虫と自然, 28(11):2-6.

中浜直之・河上康子, 2010. 香川県と和歌山県におけるハネカクシ科 *Diaulota* 属 2 種の記録. ねじればね, 127:14-15.

小川次郎・栗原隆・瀬島翔馬・酒井雅博, 2008. 愛媛県越智郡上島町赤穂根島の昆虫類 その 2 コウチュウ目 (1). 四国虫報, (41):5-16.

Sawada, K., 1971. Aleocharinae (Staphylinidae, Coleoptera) from the intertidal zone of Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 19(2/3): 81-110.

末長晴輝・河上康子, 2008. アオキツツムネウミハネカクシの岡山県における分布記録. ねじればね, 123:14-15.

脇悠太, 2018. 屋島でハマベゾウムシを採集. へりぐる, 39:36.

野生動物調査協会・Envision 環境保全事務所, 2019. 日本のレッドデータ検索システム. <http://jpnrd.com/index.html> (閲覧日 2020.02.17)

(Ryôtarô WAKIMURA 兵庫県立相生高等学校)

多可郡多可町中区高岸で得たタマムシ類

松尾隆人

多可郡多可町中区高岸の山中に直径 20cm 程のコナラ伐倒木と粗朶が放置されていた。当地は標高約 150m で周囲はヒノキやスギの植林とアベマキやコナラなどを主体とした雑木林になっている。筆者は 2019 年 5 月末から約 1 ヶ月間、当地で枯材等に集まるタマムシ類の調査を行ったところ、以下の種が得られたので報告する。採集者は全て筆者自身であり、採集データが 3 件以上に及ぶ場合は、2 件目の後に「. ほか」と記載して他データを省略した。なお、学名は大桃・福富 (2013) に従った。

1. アオマダラタマムシ *Nipponobuprestis (Nipponobuprestis) amabilis* (Vollenhoven, 1864)
3. VI. 2019. 1ex.; 4. VI. 2019. 1ex.. ほか
藤色のシヨベルカーから滲み出た潤滑油に飛来した。

2. クロホシタマムシ *Lamprodila (Palmar) virgate* (Motschulsky, 1859)
29. V. 2019. 1ex.; 30. V. 2019. 2exs.. ほか

3. ムツボシタマムシ *Chrysobothris succedanea* E. Saunders, 1873
5. VI. 2019. 1ex.; 6. VI. 2019. 1ex.. ほか

4. オオムツボシタマムシ *Chrysobothris ohbayashii* Y. Kurosawa, 1948
30. V. 2019. 2exs.; 1. VI. 2019. 3exs.. ほか

5. クロナガタマムシ *Agrilus cyaneoniger* E. Saunders, 1873
6. VI. 2019. 1ex.; 9. VI. 2019. 1ex.. ほか

6. ケヤキナガタマムシ *Agrilus spinipennis* Lewis, 1893
9. VI. 2019. 1ex.; 13. VI. 2019. 1ex.. ほか

7. トガリカラカネナガタマムシ *Agrilus madeci* Baudon, 1968
24. V. 2019. 2exs.; 26. V. 2019. 1ex.. ほか

8. シロテンナガタマムシ *Agrilus sospes* Lewis, 1893
3. VI. 2019. 1ex.; 5. VI. 2019. 1ex.. ほか

9. コクロナガタマムシ *Agrilus yamawakii* Y. Kurosawa, 1898
6. VI. 2019. 1ex.; 9. VI. 2019. 1ex.. ほか
カラスザンショウ生木の幹より得た。

10. ウグイスナガタマムシ *Agrilus tempestivus* Lewis, 1893
26. V. 2019. 1ex.; 29. V. 2019. 2exs.. ほか

11. オオウグイスナガタマムシ *Agrilus asiaticus* Kerremans, 1898
3. VI. 2019. 2exs.; 4. VI. 2019. 2exs.. ほか

12. ホソアシナガタマムシ *Agrilus ribbei* Kiesenwetter, 1879
24. V. 2019. 1ex.; 26. V. 2019. 11exs.. ほか

13. クヌギナガタマムシ *Agrilus friebi* Obenberger, 1922
4. VI. 2019. 1ex.

14. ミツボシナガタマムシ *Agrilus trinotatus* E. Saunders, 1873
4. VI. 2019. 1ex.; 9. VI. 2019. 1ex.

15. アサギナガタムシ *Agrilus moerens* E. Saunders, 1873
3. VI. 2019. 1ex.

16. ヒメアサギナガタムシ *Agrilus hattorii* Nakane, 1983
29. V. 2019. 1ex.; 4. VI. 2019. 1ex.

17. アオグロナガタムシ *Agrilus viridiobscurus* E. Saunders, 1873
29. V. 2019. 1ex.; 8. VI. 2019. 1ex. ほか

18. ソーンダースチビタムシ *Trachys saundersi* Lewis, 1893

23. VI. 2019. 1ex.

タケニグサの葉表より得たもので、近くのウツギから飛来したものと思われる。

○参考文献

大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タムシ大図鑑. むし社

(Takahito MATSUO 多可郡多可町中区)



図1 確認されたフェモラータオオモボトハムシ (たつの市新宮町下笹).



図2 確認されたフェモラータオオモボトハムシの死体 (たつの市新宮町下野).

兵庫県たつの市揖保川沿いのフェモラータオオモボトハムシの記録

大庭伸也

フェモラータオオモボトハムシ *Sagra femorata* (Dury, 1773) はインドから東南アジア, 中国南部に分布する大型のハムシで, オスの後脚は大きく発達している. 本種は 2006 年に三重県松坂市で確認された後 (戎谷・宮武, 2011) に, 三重県内で分布域を拡大し続け (秋田ら 2010, 2011), 2017 年以降は愛知県名古屋市 (河路, 2019) と大阪府池田市 (齋藤, 2019) でも確認されている. 兵庫県内では, 2016 年 7 月に宍粟市中心街 (三木, 2017), 2017 年 7 月にたつの市新宮町の栗栖川沿い (刈田, 2019) でそれぞれ 1 例が確認されている. これらの報告に続くものとして, たつの市新宮町揖保川沿いで新たに 2 個体を確認したので報告する.

2019 年 7 月 8 日の午前 8 時頃, たつの市新宮町下笹の揖保川河川敷のセイタカアワダチソウに定位している 1 個体を発見した. 図 1 の通り, 光沢の強い赤色系統の個体で, 周辺を探索したが, その他の個体は得られなかった. 筆者はその存在を知っていたものの, 兵庫県内で記録があるとは知らなかった. 上記日時に偶然, 河川敷を歩いている際に金属光沢の強い異彩を放つ甲虫が

いたので, 立ち止まって注意深く観察したところ本種であった. 更に, 2019 年 7 月 27 日の 18 時半頃, たつの市新宮町下野のアスファルト上で 1 個体の死体を発見した (図 2).

兵庫県ではこれまでに宍粟市と, 今回と同じくたつの市新宮町の栗栖川沿いで発見されている (刈田, 2019). いずれの報告共に, 確実な発生・定着は確認されていなかったが, 本報告を含めて 2016 年以降で宍粟市と隣接するたつの市から 3, 4 例目の報告となることから, 偶発的な記録とは考えにくく, すでに繁殖しているものと推察される. 本種はクズを主なホストとするが, 他のマメ科植物も利用しているため, 農業害虫としても今後の分布拡大が懸念される. 今後の動向にも注意すべきであろう.

○参考文献

戎谷秀雄・宮武頼夫, 2011. 三重県におけるフェモラータオオモボトハムシの 2006 年の記録. 月刊むし, 488: 41.

秋田勝己・乙部宏・高桑正敏, 2010. 三重県に定着した外来種フェモラータオオモボトハムシの駆除を試みて. 月刊むし, 473: 43-44.

秋田勝己・乙部宏・鈴木知之・中西元男・高桑正敏, 2011. 三重県に定着した外来種フェモラータオオ